



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月8日

上場会社名 セイコーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8050 URL https://www.seiko.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 修司
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理部長 (氏名) 瀧沢 観 (TEL) 03-3563-2111
 四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	173,861	19.1	6,492	837.4	7,196	—	3,910	70.2
2021年3月期第3四半期	145,998	△21.0	692	△91.5	△878	—	2,297	△64.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 7,961百万円(77.1%) 2021年3月期第3四半期 4,494百万円(△30.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	94.81	94.81
2021年3月期第3四半期	55.72	55.72

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	334,769	117,784	34.7
2021年3月期	319,671	113,082	34.9

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 116,235百万円 2021年3月期 111,695百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	12.50	—	25.00	37.50
2022年3月期	—	25.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	235,000	16.0	7,000	219.1	7,500	—	4,000	15.1	96.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一 社 (社名) 一 、除外 1 社 (社名) セイコーロック株式会社

(注) 詳細は、【添付資料】9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、【添付資料】9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	41,404,261株	2021年3月期	41,404,261株
2022年3月期3Q	160,361株	2021年3月期	175,589株
2022年3月期3Q	41,239,607株	2021年3月期3Q	41,226,341株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」の算定上控除する自己株式数には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2021年4月1日～12月31日）における世界経済は、多くの国で2021年3月期の新型コロナウイルス感染症拡大の影響による急激な落ち込みからの回復が見られました。米国経済は感染再拡大や人手不足で雇用や消費の拡大ペースが一服したものの、回復傾向が持続しました。欧州ではオミクロン株の急拡大に伴う行動規制の強化などにより経済活動が影響を受けました。中国でも経済は堅調に推移しましたが、「ゼロコロナ」政策の影響や不動産市場の低迷などにより成長は鈍化しました。

わが国の経済は変異株拡大により活動制限と緩和が繰り返されましたが回復基調を維持し、慎重だった個人消費にも9月の緊急事態宣言解除後は持ち直しの動きが見られました。

(単位：百万円)

	2020年3月期 第3四半期 累計期間(a)	2021年3月期 第3四半期 累計期間(b)	2022年3月期 第3四半期 累計期間①	前々年同期 増減 ①－(a)	前年同期 増減 ①－(b)
売上高	184,728	145,998	173,861	△10,867	27,863
営業利益	8,115	692	6,492	△1,622	5,800
%	4.4%	0.5%	3.7%	△0.7pt	3.2pt
経常利益	9,357	△878	7,196	△2,160	8,074
%	5.1%	－	4.1%	△1.0pt	－
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,375	2,297	3,910	△2,465	1,612
%	3.5%	1.6%	2.2%	△1.3pt	0.6pt
換算レート					
USD (円)	108.7	106.1	111.1	2.4	5.0
EUR (円)	121.0	122.4	130.6	9.6	8.2

このような中、当社でも変異株の感染急拡大に伴い、ステークホルダーの健康、安全に留意しながら第7次中期経営計画の戦略を推進しました。ウオッチ事業では「グランドセイコー (GS)」や「セイコー プロスペックス」を中心としたグローバルブランド (GB) 拡大の取組みを進め、特に海外市場で売上高が大きく伸長しました。電子デバイス事業では医療分野などの好調な需要を確実に捉え、システムソリューション事業でも多角化やストックビジネス拡大への取組みが奏功し、両事業とも前年同期および新型コロナウイルス拡大前の前々年同期を上回る売上高となりました。その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,738億円（前年同期比19.1%増）となりました。

連結全体の国内売上高は911億円（同12.4%増）、海外売上高は826億円（同27.5%増）となり、海外売上高割合は47.6%でした。

当第3四半期連結累計期間の広告宣伝販促費は、前年同期に対して約5%増加いたしました。前々年同期に対しては約15%下回る水準となりました。その他の経費も事業活動の回復に伴い前年同期から増加し通常的水準となりましたが、売上高の回復や収益性の改善により営業利益は前年同期から58億円改善し64億円（同837.4%増）となりました。営業外収支が持分法による投資損益や為替差損益の改善などにより前年同期から改善した結果、経常利益は前年同期を80億円上回る71億円（前年同期は経常損失8億円）となりました。補助金収入1億円を特別利益に、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う損失9億円を特別損失に計上し、法人税等および非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は39億円（同70.2%増）となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間の平均為替レートは1米ドル111.1円、1ユーロ130.6円でした。

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

① ウォッチ事業

ウォッチ事業の売上高は前年同期比152億円増加、前々年同期比では156億円減少の923億円（前年同期比19.8%増、前々年同期比14.5%減）となりました。当第3四半期連結累計期間の国内の完成品ウォッチは変異株拡大の影響で計画を下回ったものの、感染者数が減少した第3四半期からは回復基調に転じました。140周年記念モデルや荘厳な白樺林をダイヤルに表現したモデルを中心に好調だったGSが前年同期を上回ったほか、「セイコー アストロン」や「セイコー プレザージュ」の売上高が伸長しました。流通別には、富裕層の旺盛な購買に支えられた百貨店や時計専門店が順調に推移しました。

海外ではGSが牽引し、GBの売上高はすべての地域で前年同期だけでなく前々年同期を上回りました。米国ではクリスマス商戦も好調に推移し、GS、「セイコー プロスペックス」を中心に前年同期、前々年同期を大きく上回りました。欧州でも英国、フランスなど多くの国でGSをはじめとするGBが売上を伸ばしました。中国では夏以降、不動産会社のデフォルト懸念が広がるなど社会不安から消費マインドが低下し、売上高は前年同期を下回りました。変異株拡大の影響によりその他のアジアの売上高は前年並みに留まりましたが、オーストラリアではGBを中心に好調に推移しました。

ウォッチムーブメントの外販ビジネスは、アジア市場向けが低調でした。

事業活動の回復に伴い費用は前年同期から通常水準に戻りましたが、売上高増加に伴い営業利益は前年同期から18億円増加し58億円（前年同期比46.5%増）となりました。

② 電子デバイス事業

電子デバイス事業は売上高472億円（前年同期比35.3%増）、営業利益40億円（前年同期は営業利益16百万円）となりました。サーマルプリンタや一部の精密デバイスで部材供給の遅れなどの影響を受けたものの、医療向け電池や水晶に加えオシレータや半導体製造装置向けの高機能金属、自動車向けやデータセンター向けの精密部品などが引き続き好調に推移し、前年同期から大幅な増収増益となりました。

③ システムソリューション事業

システムソリューション事業は売上高253億円（前年同期比0.7%増）、営業利益28億円（同11.2%増）となりました。外食産業などがコロナ禍の影響を受けたほか、一部で部材調達難が発生しましたが、社会のデジタル化の波を捉えた電子契約関連ビジネスや株式会社アイ・アイ・エムの性能管理・セキュリティ関連ビジネス、さらに公共・通信業界向けの5G向けネットワーク関連ビジネスなどが伸長し、23四半期連続で増収増益を達成しました。

④ タイムクリエーション・和光事業他

タイムクリエーション・和光事業他の売上高は前年同期比27億円増加の201億円（前年同期比15.7%増）、営業利益は2億円（前年同期は営業損失4億円）となりました。国内では感染者数の減少に伴い年末に向けて市況感が回復しました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,347億円となり、前年度末に比べて150億円の増加となりました。流動資産では、現金及び預金が46億円、棚卸資産が60億円増加したことに加え、受取手形、売掛金及び契約資産が前年度末の受取手形及び売掛金と比べ14億円増加したことなどにより、流動資産合計は前年度末より119億円増加し1,619億円となりました。固定資産では、有形固定資産が1億円、無形固定資産が7億円減少した一方、投資その他の資産が41億円増加したことなどから、固定資産合計は前年度末と比べ31億円増加の1,727億円となりました。

(負債)

負債につきましては、短期借入金が34億円、1年内返済予定の長期借入金が46億円増加しましたが、長期借入金が94億円減少した結果、借入金合計は1,238億円となりました。支払手形及び買掛金が43億円、電子記録債務が28億円、繰延税金負債が15億円増加したことなどにより、負債合計は前年度末と比べ103億円増加の2,169億円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、株主資本が6億円、その他有価証券評価差額金が23億円、為替換算調整勘定が12億円増加したことなどから、合計でも前年度末と比べ47億円増加の1,177億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年の11月頃から欧米を中心に爆発的に広まったオミクロン株は、年明け以降、国内でも急速に拡大し、経済活動への影響が懸念されます。また、第4四半期以降も引き続き半導体不足、部品・材料の価格高騰や中国市場の変化などのリスク要因はあるものの、当第3四半期連結累計期間までの業績が順調に推移したこと、電子デバイス事業の受注も好調が継続していることなどから、通期連結業績予想および通期セグメント別業績予想を以下のとおり修正いたしました。

なお、業績予想の前提となる第4四半期の為替レートは1米ドル110.0円、1ユーロ125.0円を想定しています。

【通期連結業績予想】

	今回業績予想	前回 (11月9日発表値)
売上高	2,350億円 (前年比 16.0%増)	2,350億円
営業利益	70億円 (前年比 219.1%増)	60億円
経常利益	75億円 (前年比 —)	65億円
親会社株主に帰属する当期純利益	40億円 (前年比 15.1%増)	40億円
1株当たり当期純利益	96.99円	96.99円

【通期セグメント別業績予想】

単位：億円

	売上高		営業利益	
	今回予想	前回	今回予想	前回
ウオッチ事業	1,230	1,230	70	70
電子デバイス事業	630	630	50	40
システムソリューション事業	360	360	40	40
事業別合計	2,220	2,220	160	150
タイムクリエーション・和光事業他	270	270	0	0
連結合計	2,350	2,350	70	60

(注) 連結合計はセグメント間の内部売上高消去など、連結調整後の数値です。

※ 上記の予想は、当社が現在入手している情報および合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,611	37,268
受取手形及び売掛金	37,185	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	38,624
棚卸資産	68,424	74,515
未収入金	4,932	3,233
その他	8,306	9,702
貸倒引当金	△1,421	△1,346
流動資産合計	150,039	161,997
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	74,459	75,801
機械装置及び運搬具	79,098	81,325
工具、器具及び備品	34,183	34,925
その他	8,831	9,339
減価償却累計額	△150,227	△153,944
土地	54,409	53,944
建設仮勘定	2,422	1,592
有形固定資産合計	103,177	102,983
無形固定資産		
のれん	7,336	6,696
その他	8,493	8,335
無形固定資産合計	15,830	15,032
投資その他の資産		
投資有価証券	41,463	45,399
繰延税金資産	2,273	2,362
その他	6,996	7,101
貸倒引当金	△109	△108
投資その他の資産合計	50,625	54,755
固定資産合計	169,632	172,772
資産合計	319,671	334,769

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,310	23,616
電子記録債務	6,048	8,874
短期借入金	72,611	76,024
1年内償還予定の社債	350	100
1年内返済予定の長期借入金	17,315	22,003
未払金	9,266	10,164
未払法人税等	1,478	1,089
賞与引当金	3,634	2,766
その他の引当金	1,130	1,086
資産除去債務	6	80
その他	14,528	19,482
流動負債合計	145,679	165,287
固定負債		
社債	450	350
長期借入金	35,263	25,773
繰延税金負債	3,346	4,923
再評価に係る繰延税金負債	3,614	3,614
その他の引当金	1,242	846
退職給付に係る負債	9,402	9,112
資産除去債務	729	743
その他	6,861	6,335
固定負債合計	60,909	51,698
負債合計	206,589	216,985
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	7,245	7,245
利益剰余金	75,909	76,570
自己株式	△315	△291
株主資本合計	92,839	93,523
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,431	12,804
繰延ヘッジ損益	△133	△82
土地再評価差額金	8,190	8,190
為替換算調整勘定	1,055	2,343
退職給付に係る調整累計額	△687	△544
その他の包括利益累計額合計	18,856	22,711
非支配株主持分	1,387	1,548
純資産合計	113,082	117,784
負債純資産合計	319,671	334,769

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	145,998	173,861
売上原価	88,360	100,665
売上総利益	57,637	73,196
販売費及び一般管理費	56,945	66,703
営業利益	692	6,492
営業外収益		
受取利息	42	52
受取配当金	770	773
その他	1,010	1,488
営業外収益合計	1,823	2,314
営業外費用		
支払利息	701	675
その他	2,692	934
営業外費用合計	3,394	1,610
経常利益又は経常損失(△)	△878	7,196
特別利益		
補助金収入	605	126
投資有価証券売却益	7,603	—
固定資産売却益	537	—
特別利益合計	8,746	126
特別損失		
感染症拡大に伴う損失	3,351	974
特別損失合計	3,351	974
税金等調整前四半期純利益	4,516	6,348
法人税等	2,090	2,267
四半期純利益	2,426	4,080
非支配株主に帰属する四半期純利益	129	170
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,297	3,910

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	2,426	4,080
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,989	2,213
繰延ヘッジ損益	△239	50
為替換算調整勘定	△384	869
退職給付に係る調整額	172	139
持分法適用会社に対する持分相当額	△469	608
その他の包括利益合計	2,068	3,880
四半期包括利益	4,494	7,961
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,343	7,764
非支配株主に係る四半期包括利益	150	196

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、連結子会社であったセイコークロック㈱は、連結子会社セイコータイムシステム㈱を存続会社とする吸収合併により消滅いたしました。なお、存続会社であるセイコータイムシステム㈱は、セイコータイムクリエーション㈱へ商号変更しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準等」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客への財又はサービスの提供における役割(代理人又は本人)を判断した結果、当社グループが代理人に該当する取引については純額で収益を認識する方法へ変更しております。また、当社グループが本人に該当する取引のうち顧客から受け取る額から販売店の手数料相当額を控除した純額で収益を認識していたものは、総額で収益を認識する方法に変更しております。販売時において返品が予測される取引については販売時に収益を認識せず、返品されると見込まれる商品及び製品の対価の額を返金負債として「流動負債」の「その他」に、返金負債の決済時に顧客から商品及び製品を回収する権利として認識した資産を返品資産として「流動資産」の「その他」に含めて表示しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しています。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,143百万円増加し、売上原価は172百万円減少し、販売費及び一般管理費は2,115百万円増加しております。これにより営業利益は200百万円増加し、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ233百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は1,182百万円減少しております。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表へ与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ウオッチ 事業	電子デバ イス事業	システムソ リューション 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	75,756	31,304	23,960	131,021	14,976	145,998	—	145,998
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,324	3,571	1,159	6,054	2,393	8,448	△8,448	—
計	77,080	34,876	25,119	137,076	17,369	154,446	△8,448	145,998
セグメント利益又は損 失(△)	4,012	16	2,570	6,598	△447	6,151	△5,458	692

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クロック事業等を含んでおりません。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,458百万円には、のれんの償却額△424百万円、セグメント間取引消去等△342百万円、各事業セグメントに配分していない全社費用△4,690百万円が含まれております。全社費用の主なものは、事業セグメントに帰属しない本社部門に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				タイムク リエーシ ョン・和 光事業他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	ウオッチ 事業	電子デバ イス事業	システムソ リューション 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	90,487	42,270	23,914	156,672	17,189	173,861	—	173,861
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,884	4,934	1,389	8,208	2,915	11,123	△11,123	—
計	92,371	47,204	25,304	164,880	20,105	184,985	△11,123	173,861
セグメント利益	5,878	4,048	2,857	12,785	281	13,066	△6,573	6,492

- (注) 1. 第1四半期連結会計期間において、連結子会社であったセイコークロック(株)が、連結子会社セイコータイムシステム(株)を存続会社とする吸収合併により消滅し、存続会社であるセイコータイムシステム(株)はセイコータイムクリエーション(株)へ商号変更いたしました。これに伴い、従来「その他」の区分にて表示しておりましたセグメント名称をより具体的に表記するため「タイムクリエーション・和光事業他」へ名称変更しております。当該変更による集計範囲の変更等はございません。
2. セグメント利益の調整額△6,573百万円には、のれんの償却額△424百万円、セグメント間取引消去等△68百万円、各事業セグメントに配分していない全社費用△6,080百万円が含まれております。全社費用の主なものは、事業セグメントに帰属しない本社部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の外部顧客への売上高は「ウオッチ事業」で2,553百万円増加し、ウオッチ事業以外で409百万円減少しております。またセグメント利益は「ウオッチ事業」で135百万円増加し、ウオッチ事業以外で64百万円増加しております。